

# 公の施設の指定管理者における業務状況評価

令和6年1月25日

施設名	歴史民俗資料館	所管課	文化生活スポーツ部歴史文化財課
-----	---------	-----	-----------------

## 1 施設の概要

指定管理者名	(公財)高知県文化財団	指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日
施設所在地	南国市岡豊町八幡1099-1		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県の歴史、考古及び民俗(以下「歴史民俗等」という。)に関する資料の収集、保管及び展示</li> <li>・歴史民俗等に関する専門的な調査研究</li> <li>・歴史民俗等に関する講演会、講座、研究会等の教育普及活動</li> <li>・高知県における文化財の保存、活用の推進</li> <li>・上記のほか、歴史民俗資料館の設置の目的を達成するために必要な業務</li> </ul>		
施設内容	<p>&lt;建物&gt; 延床面積4527.47㎡ RC造地上3階建                  &lt;土地&gt; 124.520㎡                  &lt;主要施設&gt; 常設展示室、企画展示室、体験学習室、多目的ホール、岡豊山歴史公園、収蔵庫、燻蒸室、研究室、会議室、資料室など                  &lt;開館時間&gt;午前9時～午後5時                  &lt;休館日&gt; 12月27日～1月1日                  &lt;主な料金&gt; 通常展 一般470円                  ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料                  施設利用料 企画展示室24,590円(1日) 多目的ホール15,700円</p>		
職員体制	常勤職員：10人 契約職員：10人 合計：20人		

※職員数は令和4年4月1日現在

## 2 収支の状況

単位：千円

		令和3年度(決算)	令和4年度(決算)	令和5年度(予算)
収入	県支出金	167,028	176,060	184,042
	事業収入	5,322	10,302	4,056
	その他	1,220	7,075	
	収入計(a)	173,570	193,437	188,098
支出	事業費	172,637	190,242	188,098
	(うち人件費)	(81,120)	(84,651)	(79,468)
	その他			
	支出計(b)	172,637	190,242	188,098
収支差額(a)-(b)		933	3,196	0

## 3 利用状況

		令和3年度(実績)	令和4年度(実績)	前年度比
① 年間利用者数 合計 (単位：人)	通常展	3,666人	通常展 5,497人	+ 1,831人
	企画展	14,030人	企画展 22,267人	+ 8,237人
	合計	17,696人	合計 27,764人	+ 10,068人
	<利用実績> コロナウイルス感染症の影響が収まってきたことに加え、春期に開催した特別展「驚異と怪異」が好評を博し、観覧者は目標を上回った(観覧者目標：17,000人、達成率：約163.3%)。			

② 利用者意見等の反映	○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等) ・ 時期:年間 ・ 方法:アンケート用紙を受付及び展示室入口に配置 ・ 回答数:423 約90%が「大変満足」または「良かった」の回答 (令和4年4月1日から令和5年3月31日までの集計結果から) ・ 調査結果公表:『令和4年度高知県立歴史民俗資料館年報』において公表
	○ 利用者意見等を踏まえた対策 ・ 総合展示室の壁付展示ケースのほこりを清掃した。 ・ 汚れていたヘッドホンを更新した。 ・ 個室トイレ内に鞆をかけるフックを設置した。 ・ 車椅子のお客様からの「展示ケース内の資料が見づらい」というご意見に対し、見えやすくなるよう台座の角度を調整した。 ・ 「企画展示室の入口挨拶板が陰になって見づらくなっている」というご意見に対し、照明の角度を調整し、見えやすくした。 ・ 解説文を幅広い年代のお客様に分かりやすくなるよう工夫した。
	○ その他
③ その他特記事項	

#### 4 年度業務評価

項 目	状 況 説 明
①適正な管理運営の確保	・建物・設備の管理については、事前に修理を行い、観覧者の安全性や快適性を保つ等、適切な管理運営が遂行されたと認められる。 ・消防計画に沿った館内組織体制を職員に周知するとともに、関連のマニュアル等を常時、職員の見える位置に掲示している。 ・通常は換気や清掃を行うことができない常設展示(総合展示室、長宗我部展示室)の展示ケースについて、集中的にガスの対策を行い、展示環境の改善を図った。
②利用者サービスの維持向上	・来館者アンケートの実施や、定例会等の自己点検により、利用者サービスの維持向上、改善に努めている。 ・各種研修会に参加するなど、職員の専門性の向上により、展示環境改善に向けた努力が認められる。
③利用実績	・新型コロナウイルス感染拡大のため一定の制約があったが、巡回展「驚異と怪異―世界の幻獣と霊獣たち―」が好評を博し、常設展・企画展の合計入館者数は27,764人で、目標数の17,000人を達成した。
④収支の状況	・ミュージアムショップの商品販売や、展示物等の職員の自作、経費削減を行うなど、工夫を凝らした取組の努力が認められる。
総合評価	A ・巡回展「驚異と怪異―世界の幻獣と霊獣たち―」を開催し、関連企画として子どもも参加できる体験型イベントなどを実施し、親子を含めた幅広い層に好評を博した。 ・常設展・企画展観覧者数の年間目標である17,000人を達成した。 ・長宗我部フェスの開催にあわせて「大坂の陣後の長宗我部氏」と題したコーナー展を開催し、その中で、山内氏入国後山内氏家臣として活躍した長宗我部国親四男・島親益一族に関する「長宗我部友親氏資料」(高知県立高知城歴史博物館寄託)を展示を行い、関連企画のミュージアムトーク及び関連講座「長宗我部氏と山内氏―長宗我部氏はタブー視されたのか?―」を開催し、「長宗我部友親氏資料」をベースとしながら、長宗我部氏の目線のみには偏らない、当時の情勢や山内氏の視点からも分析を加えた企画を実施するなど、従前と視点を変えた取り組みを実施した。 ・従前の広報に加えて、テレビCMや特集放送、四国内に向けたマスコミ広報、帯屋町吊り看板、SNSでの広告表示など、力を入れた取組が認められる。 ・職員が事業運営や職員活動に対する様々な意見を出し合い、サービス向上のための改善に取り組んでおり、優れた管理運営、事業の遂行がされたと認められる。

- 【評価の目安】
- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
  - B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
  - C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
  - D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの